

---

城陽市環境マネジメントシステム  
J-EMS（ジェイムス）実施結果報告書  
（令和5年度）



令和6年11月

城 陽 市

---

---

## はじめに

本市は、ISO14001 の認証を平成 15 年 3 月に取得し、環境マネジメントシステム（EMS）の運用開始以来、適用範囲の全職員参加のもと、省エネルギー・省資源化に向けた環境施策の推進を始めとして、年度ごとに到達すべき目的・目標を掲げ、環境負荷低減を目指してきました。

平成 24 年 4 月からは、9 年間の ISO14001 の取組実績を踏まえ、本市独自の環境マネジメントシステム（J-EMS）に移行し、運用しています。

J-EMS では、エコオフィス活動や、環境保全活動、公共工事における環境配慮等の推進の他、市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量削減を目指す城陽市エコプランの進行管理も実施しています。

本報告書は、令和 5 年度の環境マネジメントシステム運用状況及びその成果等について取りまとめたものです。

---

## 目 次

第 1 章	J-EMS 概要について	
1.	J-EMS（本市独自の環境マネジメントシステム）の概要	2
2.	適用範囲	3
第 2 章	内部監査結果及び総括について	
1.	環境監査結果	4
2.	外部アドバイス	4
3.	市長総括、指示事項	5
第 3 章	実施結果について	
1.	研修実施結果	6
2.	環境目標の実施結果	7
3.	環境に関する法令遵守結果	7
第 4 章	城陽市エコプランについて	
1.	エコプランの経過	8
2.	令和 5 年度温室効果ガス排出量	10
第 5 章	J-EMS エコスクールについて	
1.	令和 5 年度実施結果	16
2.	どんぐりやまプロジェクトについて	19

# 第1章. J-EMS 概要について

## 1. J-EMS（本市独自の環境マネジメントシステム）の概要

### （1）J-EMS の概要

J-EMS は、城陽市の事務事業活動における環境への負荷の低減及び環境の保全と改善に関する活動を継続的に実施し、維持することを目的としています。

システムは、PDCA サイクル（図1）で構成し、市長が定める環境方針に基づき計画、実施、点検、総括を行い、環境行政の効率化・活性化を図っています。

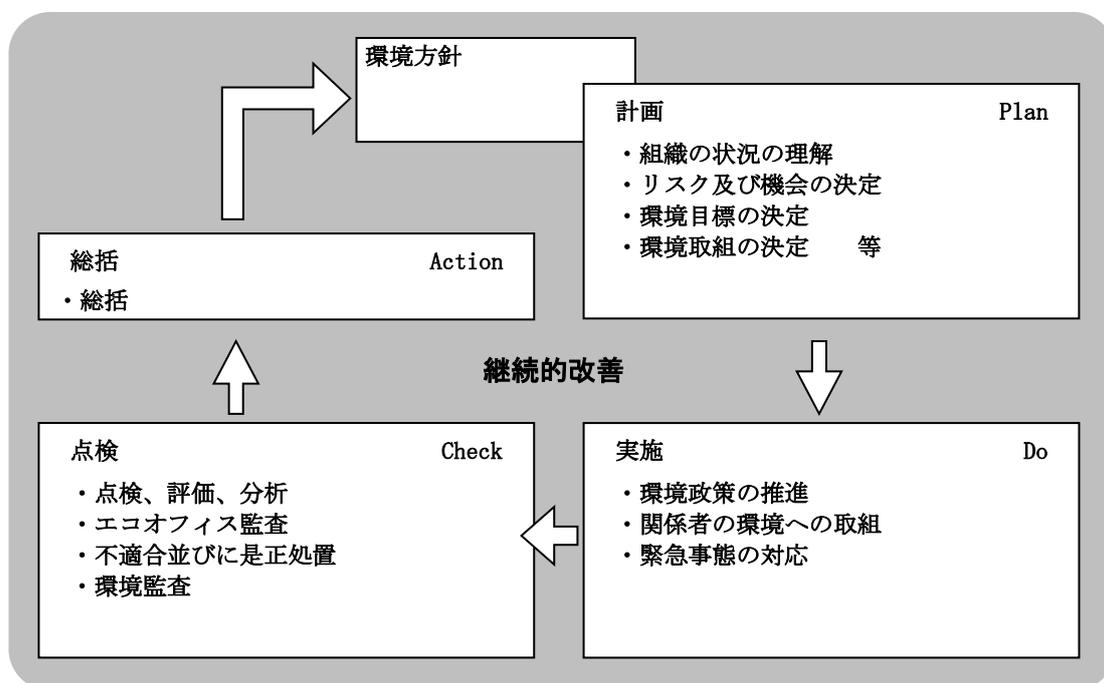


図1. システム構成図

### （2）推進体制

J-EMS を実施、維持するにあたり、環境施策を継続的に推進するため環境政策推進組織（図2）を設置しています。

環境政策推進組織の最高責任者として市長を、J-EMS 運用上の総責任者として環境政策担当部長を置き、実行部門、審議組織及び環境監査組織で構成しています。

また、J-EMS の運用状況を確認・評価する環境監査組織には、J-EMS の客観的な評価、システムの改善のための提案等を得るため、外部アドバイザー制度を導入し、環境マネジメントシステムに関する専門的な知識を有する方（2名）に委嘱しています。

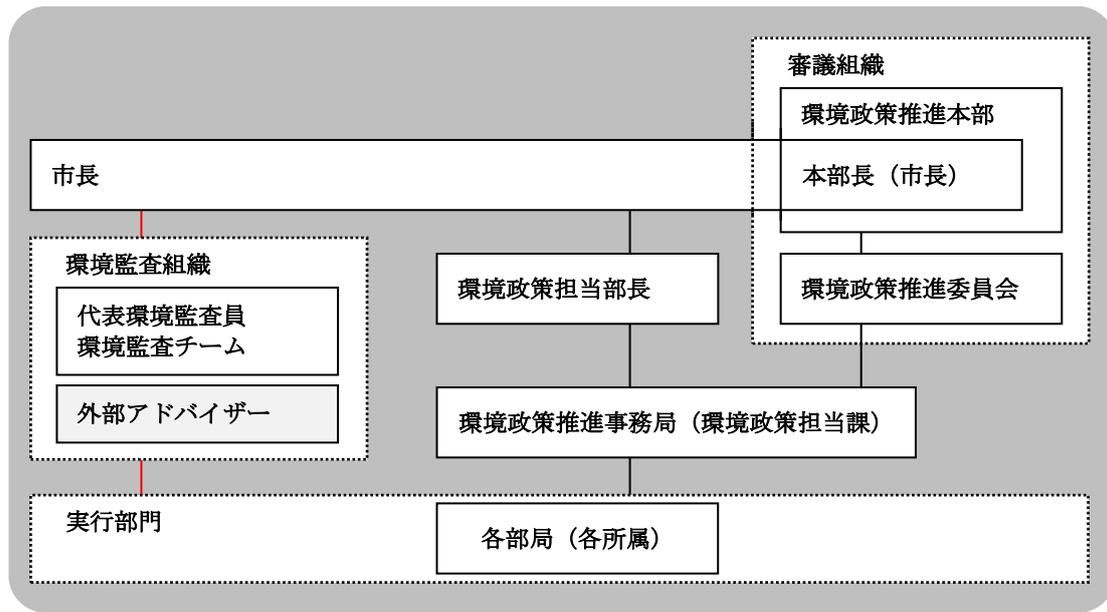


図 2. 環境政策推進組織図

外部アドバイザー

(五十音順 敬称略)

氏名	資格
芦原 昇	CEAR 環境マネジメントシステム審査員補 (ISO14001 審査員)
服部 静枝 (京都精華大学 教授)	CEAR 環境マネジメントシステム主任審査員 (ISO14001 審査員)

## 2. 適用範囲

適用範囲は、市及び市の関連施設（直接管理施設及び指定管理等施設）として  
います。

また、適用施設で働く職員を適用職員としています。

ただし、教育・子育てに係る関連施設における適用職員（幼稚園教諭、保育士、  
用務員）については、可能な範囲で取組を実施することとしています。

なお、指定管理等施設については、第 4 期城陽市エコプラン以降、J-EMS にお  
いてエネルギー使用量等を把握しています。

## 第2章. 内部監査結果及び総括について

各所属におけるエコオフィス活動の実施を確認するエコオフィス監査、環境に係る取組等がシステム（J-EMS）に適合しているかを判定する環境監査を実施しました。

エコオフィス監査の実施結果等から代表監査員が環境監査実施の必要性を認めた所属はありませんでした。

また、環境監査では、外部アドバイザーから、客観的な視点からのシステム改善のための意見（外部アドバイス）をいただきました。

監査結果や、外部アドバイス等を踏まえて市長総括を行い、システムの適切性や妥当性を評価し、次年度以降の取組の改善（環境行政の効率化・活性化）に繋がっています。

### 1. 環境監査結果

令和5年度における指摘事項は次のとおりです。

（指摘事項）	不適合	計	0件
	観察	計	0件
	充実	計	0件
	提案	計	0件

### 2. 外部アドバイス

外部アドバイザーからいただいた外部アドバイスを踏まえ、システム（J-EMS）の見直し等を行い、取組の継続的改善を意識して進めています。

#### 内部監査等について

監査員の体制が変更になり、事務局の指導性がより求められますが、従前の担当者の努力の上に、令和5年度のマニュアルの整理や環境監査の手引きなどは、非常によく整理されていると思います。感心しています。

一年ごとに交代される監査員が、より充実した監査が出来るよう、チェックリストの意味を細かく説明してあげてください。

#### 環境方針の改定等について

現状の周りの環境を考えると、環境方針を改定されることをお勧めします。

ゼロカーボンシティ宣言により 2050 年に CO2 排出量実質ゼロの実現を目指しておられるのは大変素晴らしいことです。

ゼロカーボンシティ宣言にはバックキャスト思考が不可欠ですが、バックキャスト思考となれば、2050 年 CO2 排出量実質ゼロを達成するためには、これまでの延長線上の取り組みだけではなく、再エネ導入などの革新的な取り組みについても併せてご検討いただく必要があります。

### 3. 市長総括、指示事項

市長は、環境監査での指摘事項や環境目標の達成状況、外部アドバイス等を踏まえ、毎年システムの総括を行っており、以下のとおり指示がありました。

#### 市長からの指示

令和 5 年度は J-EMS を運用してから 12 年目となり、様々な取組が浸透し、確実に環境保全活動が推進されたものと評価する。

引き続き、環境への負荷を低減する活動を継続的に実施できるよう、環境目標を設定し、活動を実施すること。

(具体的指示事項について)

- ◆環境方針が環境の変化に応じた内容となるよう、外部アドバイザーからの意見等を参考にして、改定を行うこと。
- ◆環境監査員に必要な情報をわかりやすく提供することで、監査スキルの向上に努めること。
- ◆環境監査員の作業負担等を考慮し、円滑な監査の実施に努めること。

環境政策担当部長は、次年度に向けて環境方針及びマニュアルを見直してシステム改善を行い、システム運用による取組成果の向上を図っています。

---

## 第3章. 実施結果について

職員への研修や、環境目標の設定及び取組の推進に努めました。

### 1. 研修実施結果

#### (1) 職員研修（教育訓練）

---

各所属の環境政策推進担当者（環境政策推進チーム員）に対し、環境マネジメントシステムや各種法令に対する理解を深めるための J-EMS 研修会及び J-EMS 環境監査研修会を開催するとともに、J-EMS に関するアンケートによる意見収集を実施しました。

また、職員の環境配慮意識を高めるため、全職員を対象とした自覚研修を実施しました。

#### (2) 環境監査

---

環境監査チームを構成する環境監査員に対し、環境監査を効果的に行うための事前会議を開催し、監査対象項目となる J-EMS に係る評価の基準・ポイントや監査技法（スキル）について説明するとともに、監査終了後に総括会議を開催し、次年度以降の取組の改善に繋げるための意見収集を実施しました。

## 2. 環境目標の実施結果

環境目標を元に各所属で実施する取組について、各所属で延べ 140 項目を設定し、計画達成は 138 項目、計画の一部のみ達成は 2 項目でした。

環境目標（第2次城陽市環境基本計画における 環境ビジョンの基本目標16項目）	項目数		
	設定	達成	一部のみ達成
①市民・事業者の環境との関わり合いを増やし、環境を良くするためにパートナーシップで取り組みます。	3	3	0
②環境に関する情報提供や環境学習・環境教育を充実し、環境にやさしい人を育みます。	9	9	0
③大規模プロジェクトが進み市内の環境が大きく変わる中、市が中心となって、市民・事業者とともに、環境配慮行動・環境活動に取り組みます。	3	3	0
④良好で健全な大気・水・土壌等の環境を保全し、豊かな生活環境を守ります。	8	8	0
⑤河川・地下水に恵まれた豊かな水環境を守り育てます。	3	3	0
⑥安心して暮らせる環境を守り、築きます。	15	15	0
⑦豊かな歴史・文化の活用を進めるとともに城陽らしい景観・まちなみを保全し、次世代に伝えます。	3	3	0
⑧多様な動植物が生息・生育できる自然環境を守り育てます。	8	8	0
⑨東部の丘陵地における自然環境の保全・再生・創出を目指します。	2	2	0
⑩城陽の豊かな自然を次世代に伝えるため、地域に根ざした生活を継承し、風土を生かした農業を守り育てます。	4	4	0
⑪私たちの活動が地球環境に影響を与えていることを認識し、身近な地域で行動します。	24	23	1
⑫人と環境にやさしい交通体系のまちを創ります。	4	4	0
⑬省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの活用により、低炭素型のまちづくりを進めます。	13	13	0
⑭気候変動による自然や社会への影響にあらかじめ備える「適応策」に積極的に取り組みます。	8	8	0
⑮3R（リデュース、リユース、リサイクル）のシステムを構築し、循環型のまちづくりを進めます。	31	30	1
⑯環境負荷の小さいごみ処理を推進し、きれいなまちづくりを進めます。	2	2	0

## 3. 環境に関する法令遵守結果

環境取組を実施する上で規制の適用を受ける環境法令について、令和5年度の取組に適用を受ける延べ 227 項目のうち、他の行政システムで確認した延べ 27 項目を除く 200 項目全てで遵守状況を確認できました。

---

## 第4章. 城陽市エコプランについて

地球温暖化対策の推進に関する法律第21条に基づく地球温暖化防止対策に係る実行計画である第5期城陽市エコプランについて、令和5年度における温室効果ガス排出量を報告します。

第5期エコプランでは、国の「地球温暖化対策計画」との整合性を図るため、平成25年度を基準年度とし、令和5年度から令和9年度の5年間を計画期間として、市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量を42%削減することを目標としています。

この目標を達成するため、J-EMSを活用し、市及び市の関連施設における省エネルギーを推進しました。

### 1. エコプランの経過

平成15年に策定した「エコプラン」は、4度の改定を経て、令和5年度から「第5期エコプラン」を運用しています。

第4期エコプラン以降、基準年度を平成25年度としていることから、第4期エコプラン以降の経年変化について、記載しています。

温室効果ガス排出量の経年変化について、基準年度とした平成25年度以降に実施した市及び市の施設における新築・改築工事等による施設の増築・減築等の影響を考慮し、床面積を主体として算定することとしましたところ、全体を通じて基準年度を下回っています。

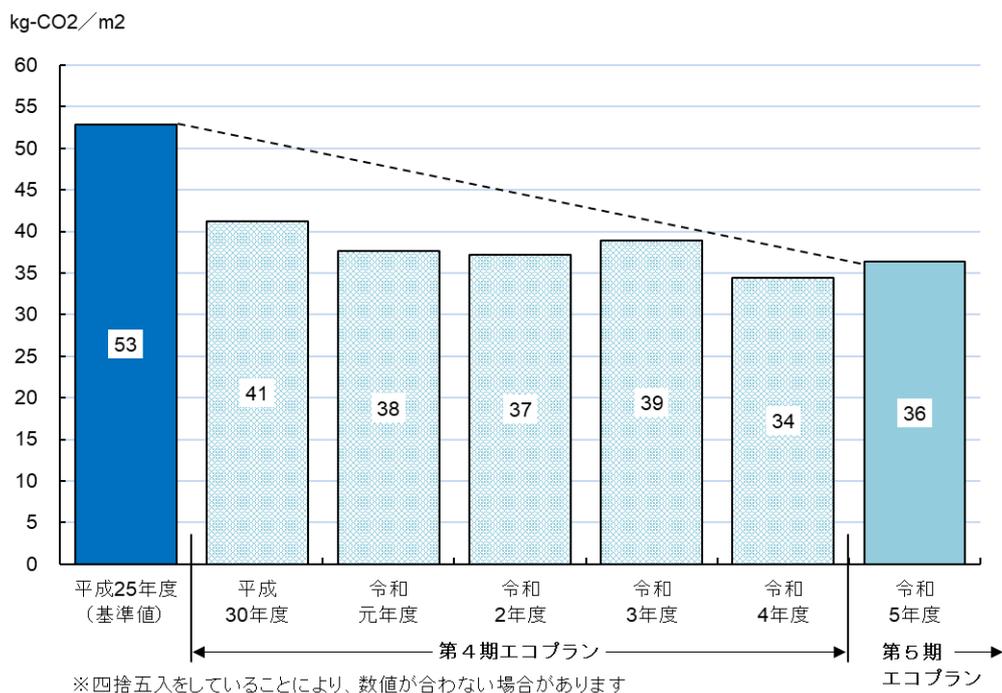
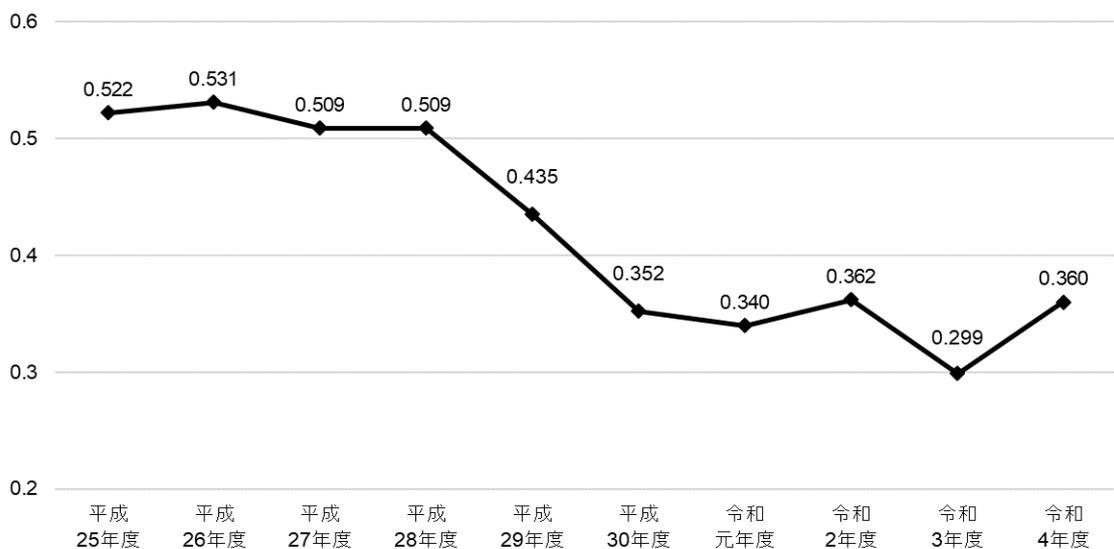


図3. 床面積あたりの温室効果ガス排出量（経年変化）

なお、温室効果ガス排出量は、算定項目（電気や燃料（都市ガス等））ごとの「活動量」（使用量等）に「排出係数」（活動量あたりの温室効果ガス排出量）を乗じて算定します。

排出係数は、算定項目ごと、事業者ごと、年度ごとに異なります（環境省・経済産業省公表）。



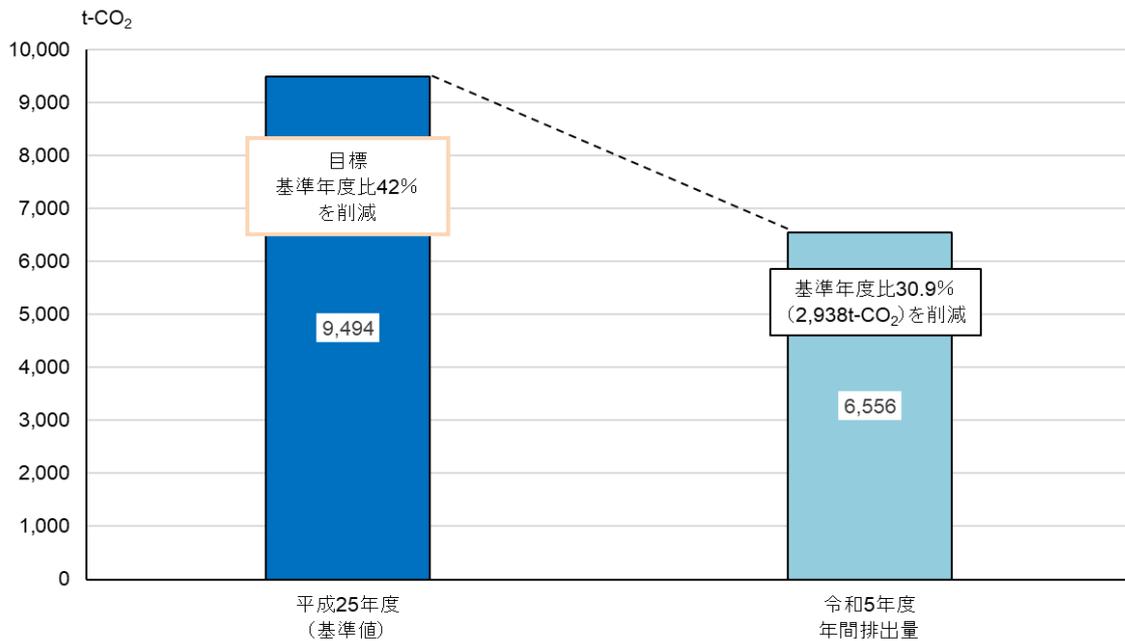
※算定・報告・公表制度に基づき、当該年度実績は、その前年度に公表される排出係数（前々年度実績）を乗じて算定しています。

図4. 排出係数の推移（関西電力(株)の公表値の場合）

## 2. 令和5年度温室効果ガス排出量

### (1) 温室効果ガス排出量

令和5年度の温室効果ガス排出量は、6,556t-CO<sub>2</sub> で、基準年度比で 30.9% (2,938t-CO<sub>2</sub>) 減少しています。



※基準値は、平成25年度実績値に、施設新設、廃止等を考慮した数値

図5. 令和5年度温室効果ガス排出量

## (2) 活動項目別温室効果ガス排出量

活動項目別の温室効果ガス排出量の78.2%が電気の使用に伴うものです。

基準年度とした平成25年度においても、電気が80.8%を占めており、市施設等における電気の使用抑制が課題であることから、職員はエコプランにおいて目標達成に向けた取組を示して取り組むとともに、J-EMSにおいてエコオフィス活動による環境負荷低減に継続して取り組んでいます。

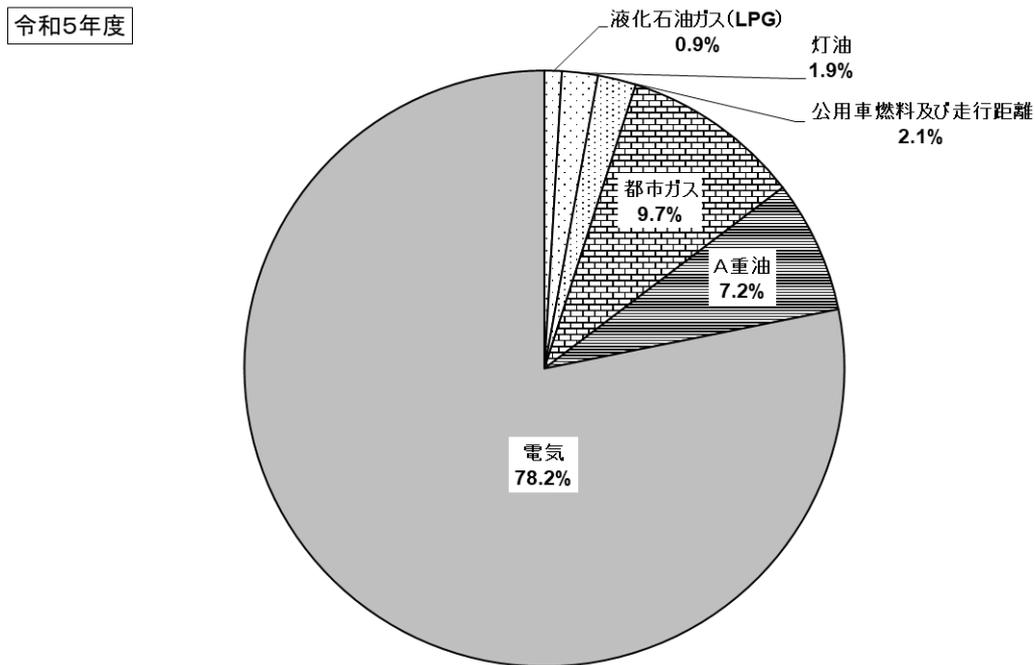


図6. 活動項目別温室効果ガス排出量

表1 活動項目別温室効果ガス排出量 (単位：kg-CO2)

		平成25年度 (基準値)	令和5年度	基準年度比	
				増減量	増減割合
電気	事務所で使用した電気	3,804,935	2,437,993	-1,366,942	-35.9%
	事業系施設で使用した電気(ポンプ場、上下水道部、街灯など)	3,863,898	2,688,077	-1,175,821	-30.4%
	合計	7,668,833	5,126,070	-2,542,763	-33.2%
燃料	灯油	285,516	126,654	-158,862	-55.6%
	A重油	453,112	472,027	18,915	4.2%
	液化石油ガス(LPG)	104,701	61,115	-43,586	-41.6%
	都市ガス	818,568	634,909	-183,659	-22.4%
	合計	1,661,897	1,294,705	-367,192	-22.1%
公用車等燃料	ガソリン	113,533	98,048	-15,485	-13.6%
	軽油	45,670	34,128	-11,542	-25.3%
	小計	159,203	132,176	-27,027	-17.0%
	走行距離(燃焼副生成物)	3,659	2,962	-697	-19.0%
	合計	162,862	135,138	-27,724	-17.0%
CO2排出量合計		9,493,592	6,555,913	-2,937,679	-30.9%

※四捨五入により、合計が合わない場合があります。

※基準値は、平成25年度温室効果ガス排出量を基に算定しています。(施設新設、廃止等を考慮)

※電気の排出係数については、地球温暖化対策推進法施行令第3条第1項第1号ロの規定に基づき毎年告示される電気事業者ごとの実排出係数を使用しています。

#### ①電気使用に伴う温室効果ガス排出量

電気使用は、基準年度比で33.2%削減となりました。

空調機の更新、街灯のLED化による省電力化等が要因として挙げられます。

#### ②燃料使用に伴う温室効果ガス排出量

燃料使用は、基準年度比で22.1%削減となりました。

中でも灯油については、市内小・中学校のFF(密閉式強制給排気)式灯油暖房機の撤去が主な要因です。

#### ③公用車等の燃料使用に伴う温室効果ガス排出量

公用車等の燃料使用は、基準年度比で17.0%削減となりました。

燃費性能が良い公用車に更新し、車両燃料使用量が減少したことが主な要因です。

### (3) 施設別温室効果ガス排出量

施設別の温室効果ガス排出量の 31.2%が上下水道施設で、その大部分は浄水場施設での電気使用が占めています。

施設別の温室効果ガスは基準年度比で学校給食センターを除くすべての施設で減少しています。

学校給食センターについては、給食提供日数が増えたことが主な要因として挙げられます。

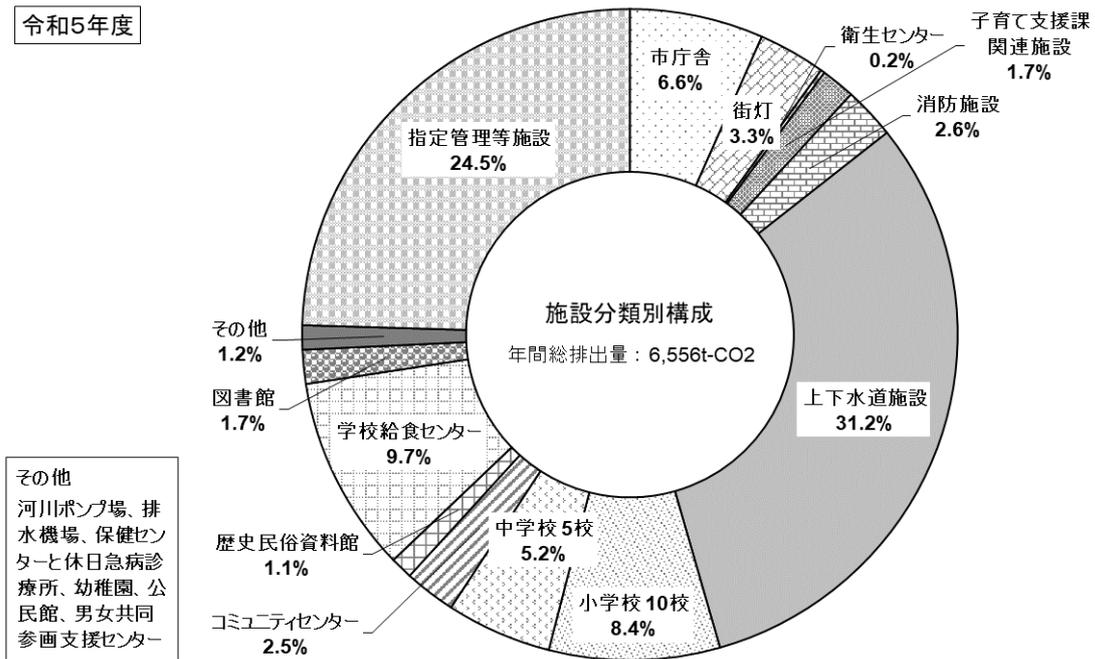


図7. 施設別温室効果ガス排出量

表 2 施設別温室効果ガス排出量 (単位：kg-CO2)

	平成25年度 (基準値)	令和5年度	基準年度比	
			増減量	増減割合
市庁舎	590,965	432,443	-158,522	-26.8%
街灯	709,394	217,585	-491,809	-69.3%
河川ポンプ場、排水機場	44,807	23,940	-20,867	-46.6%
衛生センター	66,172	12,969	-53,203	-80.4%
保健センターと休日急病診療所	41,360	30,230	-11,130	-26.9%
子育て支援課関連施設(保育園2、学童保育所10、ふたば園、地域子育て支援センター)	124,109	109,886	-14,223	-11.5%
消防施設(庁舎、久津川・青谷分署、器具庫・消防団車両)	226,044	168,006	-58,038	-25.7%
上下水道施設(庁舎、浄水場、ポンプ所、取水井)	2,983,323	2,046,507	-936,816	-31.4%
幼稚園 1園	7,890	6,243	-1,647	-20.9%
小学校 10校	638,721	551,725	-86,996	-13.6%
中学校 5校	439,662	341,246	-98,416	-22.4%
コミュニティセンター(北部、東部、南部、今池、青谷、寺田)	272,863	166,492	-106,371	-39.0%
公民館(久津川)	27,695	1,358	-26,337	-95.1%
歴史民俗資料館	91,409	72,347	-19,062	-20.9%
学校給食センター	584,553	638,780	54,227	9.3%
図書館	139,682	110,554	-29,128	-20.9%
男女共同参画支援センター	23,173	17,017	-6,156	-26.6%
合計	7,011,822	4,947,328	-2,064,494	-29.4%
指定管理等施設	2,481,770	1,608,585	-873,185	-35.2%
総 合 計	9,493,592	6,555,913	-2,937,679	-30.9%

※四捨五入により、合計が合わない場合があります。

※基準値は、平成25年度温室効果ガス排出量を基に算定しています。(施設新設、廃止等を考慮)

※平成25年度にない施設は、施設完成後初めて通年稼働した年度の実績を基に基準値を算定しています。

## 第5章. J-EMS エコスクールについて

平成27年度より、各小中学校における環境負荷の低減を図るとともに、環境教育の推進を図ることを目的とし、J-EMS エコスクールの運用を開始しました。

J-EMS エコスクールは、主に学校における環境教育の観点からの環境マネジメントシステムとして、環境学習、環境美化活動に、エコプラン（省エネ・省資源活動）の推進等を加えたシステムです。

J-EMS エコスクールは、各学校長をトップとした学校の独自取組として、日常における省エネ・省資源取組、環境学習等について、現状調査、環境目標、実施計画、見直しといったPDCAサイクルにより取組を推進することとしています。

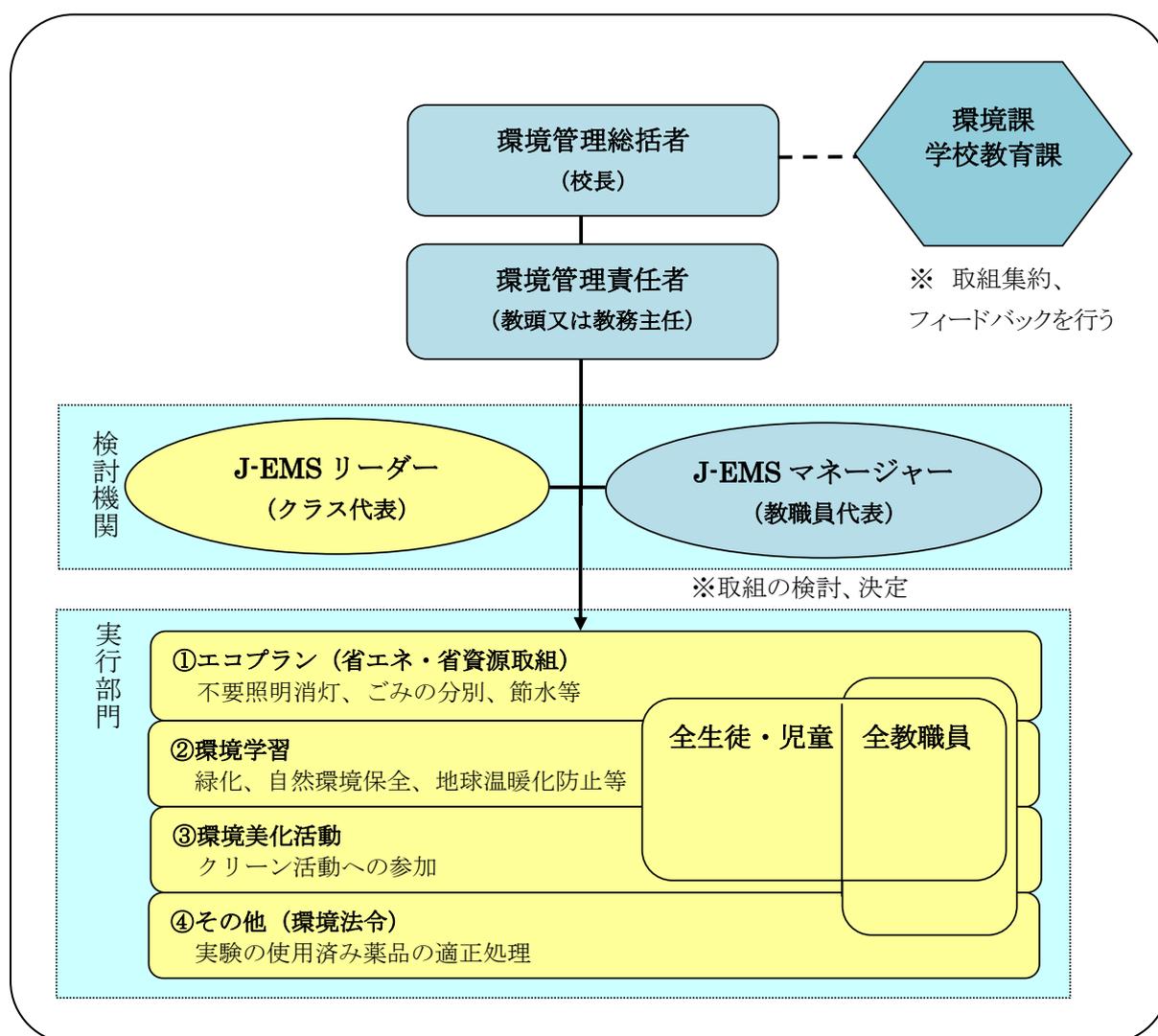


図1. J-EMS エコスクール組織図

## 1. 令和5年度実施結果

学校毎に、児童生徒、教職員、学校全体の3つの取組（環境目標）を設定し、実施しました。各校の実施結果は次のとおりです。

### (1) 中学校

校名	取組内容			取組の様子等
	児童	教職員	全体	
城陽中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教室の電気はこまめに消す。</li> <li>◆コンタクトレンズ容器の回収を呼びかけ、資源のリサイクルに努める。</li> <li>◆給食の残飯を減らす取組を行う。</li> <li>◆ゴミの分別を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆適切な室温管理を徹底する。</li> <li>◆紙の再利用に努める。</li> <li>◆水の節約や節電に努める。</li> <li>◆給食の残飯を減らす取組を行う。</li> </ul>	「ゴミ0（ゼロ）の日」や「校内クリーンキャンペーン」に参加し、校内環境を整える。	給食委員は給食の残量を調査して、結果を全校生徒に知らせる活動を行い、残飯、残乳に対する意識を高めることができた。取組を行う際、ICTなどを活用し、数値化をし、生徒が結果を発表するときにスムーズに行うことができた。安全美化委員で掃除キャンペーンを行い、ボランティア活動で花植えを行うなど、校内環境を整えるという成果も上げることができた。
西城陽中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教室の電気、エアコンはこまめに消す。</li> <li>◆校内のクリーンキャンペーンを実施し環境改善をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆適切な室温管理を徹底する。</li> <li>◆校内のクリーンキャンペーンにPTAや生徒とともに参加し、環境改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆様々な場面で節電・節約を徹底する。</li> <li>◆校内のクリーンキャンペーンにPTAや生徒とともに参加し、環境改善を行う。</li> </ul>	教室での消灯や温度管理に関して、職員で共通して管理に努めることができた。PTA、地域ボランティアの方々、生徒、教職員で「花いっぱい運動」（2回）、「校内クリーンキャンペーン」（夏季休業中）を実施し、環境美化に努めた。また、生徒会主催の「校内ぴかぴかキャンペーン」（3回）、部活動長会主催の「学校周辺ピカピカキャンペーン」（1回）を行い、環境改善に努めた。
南城陽中学校	教室の電気や扇風機はこまめに消す。	適切な室温管理（冷房時28℃、暖房時20℃）を徹底する。	グリーンカーテンに取り組む。	マネージャーがエアコンの運用、教室の消灯などについて声掛けを行い、教職員に周知している。現状としては、なかなか徹底されない。
東城陽中学校	教室の電気はこまめに消す。	省エネと資源の節約を心がける。	SDGsを意識した取り組みを行う。	環境美化委員が前期と後期で省エネ・節水のポスターを作り、省エネ・節水週間の取組を行ったが、不十分であった。環境美化委員と給食委員が残飯を減らす取組を行い、環境美化委員が給食時間中に放送で呼びかけ、給食委員が給食の残飯のチェックを行った。この取組については、一定の効果が上がった。
北城陽中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教室の電気はこまめに消す。</li> <li>◆ゴミの分別を確実に行う。</li> <li>◆保健委員は教室のCO2濃度を知らせる取組をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆冷暖房を適切な温度に保つ。</li> <li>◆ミスプリントの裏面の使用を一層進める。</li> <li>◆毎月の電気料金を職員に知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆校内での植物の栽培を推進し生物の生育環境を学ぶとともに環境の大切さについて知る。</li> <li>◆校区、校内の環境美化に努める。</li> </ul>	移動教室の際は学級委員が消灯等の管理を行った。また、美化委員を中心にゴミの分別を呼びかけ、教室内の環境整備を心掛けた。保健委員は教室のCO2濃度を計測し、知らせる取組を行った。掃除の時間のゴミ捨ては、分別をして処分した。職員向けのプリントは裏紙の使用を徹底し、資料配付を減らし、会議のペーパーレス化はほぼ完了した。

## (2) 小学校

校名	取組内容			取組の様子等
	児童	教職員	全体	
久津川 小学校	教室で出たごみを燃やすごみと燃やさないごみに分別する。	節電に努める。	環境美化の一環として校内で様々な花を植える。	委員会活動では、今年度も「エコ週間」に取り組むことができた。この取組を通して、節電や節水、ゴミの分別の大切さを意識することができたので、今後さらに意識を高めていきたい。 花を植える活動についても、今年度も取り組んだ。昨年よりも参加児童を増やして取り組んでおり、いろいろな花の苗を植えたりグリーンカーテンを作ったりして、環境の整備や植物への関心を高める一助となった。
古川 小学校	教室の電気はこまめに消し、水道の水は出しっぱなしにせず確実に止める。	適切な室温管理に努め、無駄な電力使用を控え、節電を心がけるよう徹底する。	古紙回収に取り組む。	感染症予防のため手洗い、うがいで水道を使うことが多かったが、蛇口を閉めることはほぼ定着できている。教室移動時の消灯について、時々忘れていたことがあった。 冷暖房については、温度設定のみを重視すると夏は暑すぎ、冬は寒すぎるが見られ難しさを感じることも多かった。その中で温度設定を気かけながら取り組むことはできた。 今年度も古紙回収に取り組み、児童・教職員の環境への意識を高めることに努めることができた。
久世 小学校	教室に誰もいない時は、電気や扇風機、エアコンをこまめに消す。	◆ごみの分別を徹底する。 ◆印刷するときは裏紙を利用したり、コピー機を毎回リセットしたりして、紙の無駄遣いを減らす。	ごみの分別や節電を意識して行動する。	移動教室の際には、教師が教室の電気やエアコン、扇風機を切ることを意識して取り組むことができた。 会議等の校内のみで使うプリントについては、裏紙を極力用いることができた。また、ペーパーレス化を意識することができた。
深谷 小学校	◆どんぐりやまプロジェクトに参加。 ※プロジェクト詳細は、「2. どんぐりやまプロジェクトについて (19 ページ)」をご覧ください。			4年生が中心となり、ゴーヤを育てグリーンカーテンの取組を行ったり、社会科学の学習でパッカー車に来てもらいゴミ問題について考えたりした。環境委員会では、校内の環境について考え、ポスターの作成を行った。今年度はどんぐりやまプロジェクトに参加をし、城陽市の環境問題について考えることができた。 今年度もできるだけ紙の無駄遣いを減らすため、職員資料のデータ化や teams の活用、裏紙の活用を行った。
寺田 小学校	◆どんぐりやまプロジェクトに参加。 ※プロジェクト詳細は、「2. どんぐりやまプロジェクトについて (19 ページ)」をご覧ください。			自然に親しむ経験が少ない中、ウォークラリーをして実際に自然に触れたり、自然について考えたりすることを通して、子どもの知的好奇心を揺さぶる体験活動を実施できたことはとても良かった。また、どんぐりの標本を作る活動を通して、どんぐりにたくさんの種類があることを知ることができた。

校名	取組内容			取組の様子等
	児童	教職員	全体	
寺田南 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教室内の電気は、こまめに消す。</li> <li>◆水道の蛇口はきちんとしめて無駄遣いを減らす。</li> <li>◆プルタブ、ペットボトルキャップの回収をする。</li> </ul>	<p>適切な室温管理（冷房時28℃、暖房時20℃）を徹底する。</p>	<p>ごみの分別。</p>	<p>プルタブ・ペットボトルキャップの回収は、今年度も児童会本部を中心に取組の意義を意識して積極的に集めることができた。学校だよりで知らせることで、地域や保護者の協力も得られた。暖房や冷房の設定温度は、職員室で管理して消し忘れないようにできた。プリントなどの余り紙は、裏面を利用するなど再利用したり古紙として回収することができた。</p>
寺田西 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆水道の蛇口はしっかりと締める。</li> <li>◆できる限り、水を出しっぱなしにしない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教室のエアコンや電気の切り忘れに気を付ける。</li> <li>◆紙の無駄遣いがないように心がける。</li> </ul>	<p>ゴミの分別をしっかりとする。</p>	<p>教師は印刷ミスによる印刷紙の無駄使いに気をつけ、裏紙に使用可能な内容のものを選び、裏紙を使った印刷をした。また、会議の資料などはデータ化したものを共有・閲覧することでペーパーレス化に取り組んだ。ゴミの分別、電気の切り忘れ等も含め適宜声をかけることで、意識化が図れた。</p>
今池 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆誰もいない教室の電気は、こまめに消す。</li> <li>◆水道を使った後は、蛇口をしっかりと閉める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆節電・節水に心がける。</li> <li>◆適切な温度管理に努める。</li> </ul>	<p>花いっぱい運動等を通じて、校内に様々な花を植える。</p>	<p>節電・節水の成果として水道の使用量が減った。全校行事「今池まつり」では、毎年ごみが多く出ることが課題になっていた。折り紙や段ボールを使ったお店作り自体には変わりはないが、最後出るごみが少なくなるよう全校で統一して取り組むことができた。環境委員会では、花植えや水やりなどを続けて、校内に花が一年中咲いている環境作りができた。節電節水は常に声かけをして、進んでできるクラスも増えてきた。</p>
富野 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆こまめに電灯を消すなど、節電に努める。</li> <li>◆水の無駄づかいをせず、またつかった後は必ず蛇口を締める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆節電・節水や再利用など身近な環境保護活動に取り組み、その成果を整理することにより、啓発を図る。</li> <li>◆ICTの活用により連絡事項のペーパーレス化を図るとともに、校内連絡用の印刷物は反故紙を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆校内の緑化活動に取り組む。</li> <li>◆中庭等での栽培活動に主体的に取り組む。</li> </ul>	<p>雨水利用のタンク設置により、低学年で雨水を利用した水やりの習慣が定着している。</p> <p>委員会活動を中心に、植栽や水やり、校門周辺の掃き掃除などに積極的に取り組み、環境緑化や美化の意識が高まった。</p> <p>5年生の総合的な学習の時間で環境問題について、児童の興味に合わせた分野で学習を進めた。</p> <p>教職員が率先して教室の電気の付けっぱなしや水の流しっぱなしがないように、環境に優しい学校作りを目指し取り組んだ。</p>
青谷 小学校	<p>教室の電気をこまめに消す。</p>	<p>ごみの分別とリサイクルを徹底する。</p>	<p>ゴーヤや花などの植物を育てる。</p>	<p>「教室の電気をこまめに消す」は、児童の日直や係の活動として、取り組んだ。</p> <p>「ごみの分別とリサイクル」は、教職員が意識して取り組んだ。各教室でも、児童が分別を意識している。</p> <p>6年児童とPTAの保健・環境委員が年に2回花の苗を植えた。委員会で当番を決めて、観察・水やり等を行った。</p> <p>5年生と特別支援学級児童がグリーンカーテンに取り組んだ。</p>

---

## 2. どんぐりやまプロジェクトについて

城陽市の街並みは大きく変わろうとしています。市の豊かな「自然」を守り育てながら、「未来」へと引き継いでいくためには、環境問題を正しく認識し、「今」何をすれば良いのかを考え、身近にできることから行動に移すことが重要です。

### (1) どんぐりやまプロジェクトについて

「どんぐりやまプロジェクト」は、城陽の未来を担う「子どもたち」が、「ふるさと」の自然に触れる学習や活動を通じて、環境を知り、考え、行動することで、ふるさとへの「愛着」と「誇り」を育みながら、「みどり」を創出しようとするプロジェクトです。

令和5年度は、「寺田小学校」と「深谷小学校」の2校でプロジェクトを実施しました。

### (2) どんぐりやまプロジェクトの実施結果

#### ① どんぐり図鑑の作成

城陽環境パートナーシップ会議運営委員が講師となって、様々な種類のどんぐりの特徴を学び、どんぐりクイズにも挑戦するどんぐりの学習会を行いました。クイズの後は実際にどんぐりに触って観察し、どんぐり図鑑の作製を行いました。

#### ② どんぐり拾い（五里五里の丘）

森守クラブ城陽、城陽環境パートナーシップ会議の協力のもと、どんぐりを探し、1人1個ずつ配付されたポットにどんぐりを植えました。また、班ごとに、広い園内を巡るクイズラリーや自然の中でのビンゴに取り組み、班員みんなが協力して自然に触れつつ環境について楽しく学ぶことができました。

#### ③ どんぐり学習会の実施

どんぐりの学習会を実施し、城陽環境パートナーシップ会議運営委員が用意したPowerPointを用いて、木津川運動公園整備時のコナラの「里親」になる取組を紹介しました。また、どんぐりの自然での役割について学び、未来の環境のために自分たちにできることを考えました。

---

Plan  
Do  
Check  
Act + 継続 = J-EMS

